

ハザードマップを活用して大雨に備える。

～鶴ヶ島市内水ハザードマップを作成しました～

近年の異常気象により、集中豪雨や台風など大規模な水害が発生し、全国各地で多くの尊い命が失われています。本市では、昨年10月の台風第19号で、床下浸水被害が10件確認され、市内20か所で道路が冠水するなど、近年では最も大きな被害となりました。

この経験を踏まえ、過去10年間に発生した浸水に関する情報を皆さんに提供し、災害発生時の適切な避難判断と自助による災害対策の意識向上を図っていただくため「鶴ヶ島市内水ハザードマップ」を作成しました（広報今月号折り込み）。ハザードマップは保存版ですので大切に保管し、大雨などの前に皆さんで水害に対する防災について考えましょう。

問合先 安心安全推進課防災担当

内水ハザードマップとは

大雨や集中豪雨などの内水はん濫により、被害の発生するおそれのある区域や避難場所などを表示しています。

内水はん濫とは

その場所に降った雨水や周りから流れ込んできた水が排水しきれずに溜まって起きる浸水です。河川の水位情報と違い、浸水要件が多様なため、警報を出すなどの対応が難しく、注意が必要です。

外水はん濫とは

大雨の水が河川に集まり、水かさが増し堤防を越える、あるいは堤防が決壊し、河川の水が外にあふれて起きる洪水です。はん濫が起きると一気に水かさが増し、最大の注意が必要です。

鶴ヶ島市の水害の特徴

本市には、大きな河川がなく比較的平坦な地形ですが、住む地域によって、水害の発生傾向が異なります。

【洪水浸水想定区域】

坂戸市を流れる高麗川がはん濫した場合に羽折町の一部が浸水すると想定されています。

【大谷川都市下水路、飯盛川都市下水路などの水路近く】

水路のはん濫によって道路や建物の中に水が浸入するなどの被害が想定されています。

【市街地】

その場所に降った雨水や周りから流れ込んできた水が排水しきれずに溜まって起きる内水はん濫が想定されています。

鶴ヶ島市の水害における避難の優先順位

市内の一部地域で道路冠水や床下浸水が想定されています。しかし、家屋が流されて全壊するような被害は想定されていません。

避難先は市民センターや小中学校だけではなく、安全な親族・知人宅に避難することも考えてみましょう。

① 自宅避難

自身と自宅の安全が確保できたら、自宅での生活が続ける「在宅避難」をお願いします。

② 親族・知人宅へ避難

水害は、気象予報などである程度予測可能です。親族や知人宅に避難するなど、避難所以外の場所へ避難することも検討しておきましょう。

③ 垂直に避難

大雨や台風などで浸水のおそれがあっても自宅にいて生命の危機が生じず、安全確保が可能な場合は、避難することによる二次災害を防ぐため、自宅の2階以上に避難する「垂直避難」をお願いします。特に、夜間や豪雨時の外への避難は危険を伴います。

④ 避難所へ避難

①～③までの避難行動がとれない場合は、市の避難所開設状況を確認の上、避難をお願いします。

主な災害と避難所の開設

地震・台風・大雪・竜巻・大規模火災など災害は様々ですが、本市で起こりやすい災害として、地震による大規模災害、台風や大雨による風水害が挙げられます。

地震災害を予期することは困難ですが、風水害は、気象予報などをもとに市民の皆さん一人ひとりが、災害に対するある程度の準備が可能です。こうしたことを踏まえ、市では次のような避難所の開設を行っています。

地震災害などは小中学校の体育館へ

地震災害などの大規模災害時は、市内全体が一斉に被災地となります。

多くの備蓄品は各小中学校に備蓄しており、市内小中学校の体育館を中心に避難所を開設します。その後、必要に応じ、市民センターなどを二次避難所または福祉避難所として開設します。

風水害などは市民センターへ

台風や大雨などの風水害時は、自宅・親族宅・知人宅での避難が難しい方、または自主的に避難したい方のために、

水のう・土のう(代用品)の作り方

浸水には水のうや土のうが有効です。まだ水深が10cm以内の初期の段階なら、家庭にあるプランター、レジャーシート、ゴミ袋などを利用した応急処置が可能です。

■ ゴミ袋で水のうを作る

ゴミ袋(40ℓ程度)を二重にして、中に半分程度の水(風呂の残り水を使うと便利)を入れ、玄関などにすき間なく並べます。段ボールに入れて連結すれば、強度が増し、積み重ねることもできます。また、水のうを袋のままトイレや洗面台、洗濯機の排水口に置くと排水口から泥水が逆流してくる、逆流浸水を防ぐことができます。

■ プランターとシートで土のうを作る

土を入れたプランターを横に並べ、レジャーシートを巻いて補強します。また、プランターの代わりに水を入れた防災タンク(ポリタンク)などを連結し、レジャーシートを巻けば、土のう代用品として利用できます。

いざというときに

落ち着いて行動できるように！

■ 平常時から危険箇所を確認しましょう！

事前に内水ハザードマップで想定される浸水場所や浸水の程度を確認しておきましょう。

■ 情報収集方法を確認しましょう！

- ▼ 防災行政無線(防災無線テレホンサービス)
☎0800・800・6378(フリーダイヤル)
☎271・1717(有料)
- ▼ 市ホームページ
- ▼ SNS配信(Twitter、Facebook)
- ▼ 緊急速報メール



市HPはこちら

■ 避難場所・避難方法を確認しましょう！

危険箇所がある地域に住んでいる方は、避難方法や避難場所を確認しておきましょう。

- ▼ 危険箇所がない地域に親族・知人宅などがある場合は、事前に相談し、早めに避難しましょう
- ▼ 事前に市内の危険箇所を把握し、危険箇所を避けて迅速に避難できるよう、平常時から避難ルートを考えておきましょう

避難所における新型コロナウイルス感染症への対応

感染症予防は「3つの密(密閉・密集・密接)」を避けることが重要です。避難所における感染拡大防止のため、可能な場合には自宅や親族・知人宅など、避難所以外への避難にご協力をお願いします。

■ 避難する際の持ち物

感染症対策として、次のものを可能な限りご自身でご用意ください。

マスク、体温計、アルコール消毒液、除菌シート、ティッシュペーパー、食料、飲料水など

■ 避難者の健康状態の確認

避難所に避難した方は、受付時に健康状態の確認を行います。発熱や咳が出るなど感染が疑われる方は、在宅避難や親族・知人宅などへの避難を勧め、それが困難な場合には

一般避難者と居住エリアを隔離、または区切ります。

避難が見込まれる段階で、すでに風邪の症状が続いていたり、息苦しさ、強い倦怠感、高熱などの症状がある場合には保健センター(☎271・2745)に連絡し、指示にしたがってください。

■ 手洗い、咳エチケットなどの徹底

断水などがなければ、こまめに手洗いし、咳エチケットなどを徹底しましょう。また、避難所内ではできる限りマスクの着用をお願いします。

■ 十分な換気の実施やスペースの確保

避難所内は十分な換気を行うとともに避難者同士がスペースを確保できるように努めましょう(通常時よりも広いスペースが必要となります)。

普段から備蓄を

災害が発生し、復旧するまでには数日間かかります。日頃から食料や水、非常用トイレ袋などを用意し、生活できるようなしておくことで、在宅避難も可能となります。

避難する際に必要なものは、常備薬や普段着など一人ひとり異なりますので、事前に準備、点検をお願いします。また、貴重品や非常食などは日頃からすぐ持ち出せるように準備をしておきましょう。

避難する際のお願い

避難した方も役割を分担し、避難所運営に関わっていくことが必要です。

また、大規模災害発生時には市の備蓄品だけでは足りません。避難所の備蓄には限りがあります。市民の皆さん一人ひとりが持参できるものは持参する意識を持ちましょう。

自分で持参したものを使用することで避難生活のストレス軽減にもつながります。